

令和6年度 県立石岡第二高等学校自己評価表

目指す学校像	(1) 変化するグローバル社会において活躍できる生徒を育成する学校 (2) 伝統の継承・再生とともに社会の変化に柔軟に対応し、生徒・保護者・地域社会からの期待に応える学校 (3) 普通科・生活デザイン科が相互に切磋琢磨しながら教育の質を高め、新しい価値の創造に積極的に挑戦し、社会に貢献できる生徒を育成する学校 (4) 学校、家庭、地域社会と連携・協働し、社会に開かれた創造性豊かな教育を行う学校		
	三つの方針	具体的目標	
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	地域社会の産業と伝統を中心となって支え、多様性を認め、自他ともに尊重できる人間の育成	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	個別最適な学びと探究活動、様々な体験学習によって、基礎的・基本的な学力と豊かな人間性を育み、多様な進路希望を実現する	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	本校の学習や活動に好奇心をもって意欲的に参加し、自己の可能性を信じて前向きにこつこつと取り組む姿勢と、思いやりや素直さをもつ生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況

別紙様式2 (高)

<p>○探究活動を軸にした学びのスタイル改革（授業改善）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒による学校評価アンケートの一昨年との比較から △「先生はわかる授業を行っている。」 82.5% ⇒ 84.6% △「授業ではタブレットや電子黒板、インターネットが効果的に使用されている。」 88.0% ⇒ 91.2% △「先生は、一人ひとりに生活や学習面でアドバイスをしている。」 69.0% ⇒ 76.4% ▼「学習アプリ（スタディサプリなど）を有効活用している。」 66.9% ⇒ 36.8% 	<p>①「筑翠ルネサンス Next Stage」（チャレンジ・プロジェクト）の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○普通科と生活デザイン科の協働を図り、地域の課題を発見・解決し、新しい価値を創造する教育活動を展開する。 ○生徒が自ら地域や社会の課題に目を向け、自身のアイデアを生かし解決策を話し合っ、学校内外へ向けて提案・実践する取組を実施する。 ○日本の伝統文化に対する生徒の理解を深め、郷土を愛し伝統文化を尊重する態度を養う。 ○自国文化や異文化の理解を深める指導の充実を図り、国際交流体験活動を定着させる。 ○探究的な学びのリーダー校として、本校の取組を積極的に発信する。 	<p>A</p>
<p>生徒は、教員がICTを活用し授業を効果的に行っており、生徒にとってわかりやすい授業が行われていると感じている。</p> <p>教員もICTを効果的に利用していることでできた余裕から生徒に対し、生活や学習面で生徒一人ひとりに寄り添った対応がよりできるようになったことがわかる。</p> <p>その一方で、学習アプリを有効活用することについては、授業内容とのリンクや生徒の学習状況を把握し適切なアドバイス等を行うといった、本校生徒に合った個別最適化学習やり方を模索し実践することが今後の課題である。</p>	<p>②豊かな心をはぐくむ教育の推進と生徒支援の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○小さなトラブルにも早期に対処しいじめを未然に防ぐ。 ○生徒の実態を把握し、学校の課題を明確にした生徒指導体制づくりを行う。 ○各教科の授業等で道徳性や規範意識、モラルを高める取組を充実させる。 ○スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家の積極的・効果的な活用と教育相談体制の強化を図る。 ○教職員自らの人権に関する認識を深め、指導力の向上を図るための研修を充実させる。 ○18歳成人に伴う啓発活動を行い、社会人としてふさわしい態度を育成する。 	<p>A</p>

別紙様式 2 (高)

<p>生徒を主語にして授業を行うことを意識し、今後も継続して、ICTや一人一台端末を活用した授業改善を進め、生徒が学ぶことへの喜びを経験できるような授業を研究、実践していく。</p> <p>○キャリア教育について これまでのキャリア教育を見直し、本校生の実態に合った学校として一貫した進路指導を進路指導部が主導して改革を進めている。 ・本年度の進路実績 △国公立大学 1名合格 4年連続 △私立大学 28名 (昨年比 +6) 就職 51名 (学校斡旋 44名、石岡市役所 1名) 本校生は推薦等を利用した進学が多いことから、総合的な探究の時間で行っている探究活動を将来の進路に結びつけるなどして、高校での学びを将来に生かせるように進路指導部と企画開発・ICT教育推進部の連携をさらに充実させていく。</p> <p>○豊かな心の育成について 生徒一人一人の悩みや不安に寄り添えるようスクールカウンセラーや外部専門機関との連携を今後もより一層強化していく。また、今年度から一人一台端末を活用した教育相談も取り入れた、生徒の悩みを早期に発見し解決できるよう、今後も教員一丸となって取り組んでいく。</p>	<p>③探究を軸とした学びのスタイル改革とICT教育の推進 (授業改善を含む)</p>	<p>○生徒が正解のない問いに臨む機会を創出し、自ら主体的に学ぶ課題解決型の学習スタイルを確立する。 ○協働学習、個別最適な学び、協働的・探究的な学び、反転学習等において、ICTを活用した教育活動を推進する。 ○学習アプリの活用を促進する。 ○異校種との連携や校内外の研修への参加を推奨し、高い専門性を持った学び続ける教員を育成する。 ○教務部や各教科と連携し、教科等横断的な授業を実践する。 ○授業改善 ・生徒による授業評価「授業を通して、知識や技能(技術)が身に付いた。」(KPI 3.4) ・生徒による授業評価「授業を通して、考えたり表現したりする力が身に付いた。」(KPI 3.4)</p>	<p>A</p>
	<p>④多様な進路希望に対応したキャリアデザイン形成</p>	<p>○自らの意思と責任で、進路を主体的に選択する資質・能力を育成する指導の工夫を図る。 ○就業体験活動(インターンシップ)等、キャリア教育に関する実践的・体験的な活動への参加を促進する。 ○キャリア・パスポートを活用し、キャリア学習の見える化と保護者との情報共有に資する。</p>	<p>A</p>
	<p>⑤学校行事やボランティア活動等の体験的活動の充実</p>	<p>○教職員の支援のもと、学校行事の充実を図るための取組を推進する。 ○生徒会の主体的な活動の促進等、生徒の自治的・協働的な活動を活性化させ、シティズンシップ教育を推進する。 ○ボランティア活動などの社会奉仕体験活動への参加を促し、自己有用感の育成を図る。</p>	<p>B</p>

別紙様式2 (高)

○働き方改革 職員の勤務時間については、勤怠管理システムのデータを分析し、面談等で勤務状況等の把握と情報共有を行い、教員自身で効率のよい働き方を考えていく。 定時退勤日の退勤時間の順守、時差出勤制度や長期休業中のテレワークの活用などを推進する。また、会議や学習指導におけるICTの積極的な活用で、教職員の負担軽減に努めていく。	⑥開かれた学校づくりの推進	○学校公開等の実施や地域行事等への積極的な参加等により、保護者・地域社会との連携を強化する。 ○学校WEBページの充実やSNS等を活用し、積極的に学校の取組や生徒の活動を発信する。	A	
	⑦働き方改革の推進と職場環境の改善	○定時退勤日や完全退勤時間等の取組を促進し、超過勤務時間の縮減に努める。 ○時差出勤制度やテレワークを積極的に活用する。 ○部活動運営方針の徹底を図る。 ○教材等の共有や外部の教育資源の活用を推進する。	B	
	⑧コンプライアンスの遵守	○厳正な規律と高い倫理観を保持しつつ職務に精励する。 ○教職員一人一人が全体の奉仕者であるといった公務員の原点を改めて思い起こすとともに、職務上の義務や身分上の義務について理解し、自らの行動を見つめ直す。 ○教員評価面談等及び学校コンプライアンス委員会の開催や法令遵守に向けた研修を行い、教育公務員として服務規律を遵守する意識を一層徹底する。	A	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教務	現行の教育課程の見直しも含め、適切な運営と授業の充実を図る。	生徒の実態に応じ各分掌と調整しながら適切な教育課程を検討、作成し、「わかる授業」を展開する。	A	A ・相互授業参観の充実を図りたい。 ・生徒の実態に最も適する教育課程についてある程度の期間を設定し、研究することも必要。 ・インスタ導入に伴う情報開示の範囲や成果検証が必要 ・今年度に引き続き、教育課程の検討をしたい。 ・奨学金の担当は3年生の先生が中心で良いと思うが、担任がメインで行うのは難しい。
		新学習指導要領に基づき、「主体的・対話的で深い学び」を踏まえた授業を展開できるよう、研修報告の場を設けるなどの校内研修を実施する。	B	
	適切な年間計画を編成し、教育活動の円滑な実施を図る。	企画開発部や各教科と連携し、教科等横断的な授業実践を行う環境を整備する。	A	
	適切な年間計画を編成し、教育活動の円滑な実施を図る。	各分掌と連携をとりながら行事の精選を行い、バランスの取れた年間行事計画を作成すると同時に、状況の変化に柔軟に対応した運営を行う。	A	
	事務処理の効率化と適正な情報管理を図る。	校務支援システムによる成績管理システムを整備し全職員が円滑に運用できるようにする。	A	
		成績一覧票、通知表等の処理を円滑、確実に行う。	A	
		奨学金等に関する広報と事務処理を的確に行う。	A	
	広報活動を充実させる。	学校公開の内容を充実させ、インターネット等を通じて確実に発信する。	A	
進学フェアへの参加、中学校訪問等を積極的に行い、様々なニーズに対応した広報活動を行う。		B		

別紙様式2 (高)

進路指導	各学年の進路指導計画に基づいた職業観・勤労観を育成し、生徒の希望進路を実現する。	1学年:進路講演会、進路ガイダンス等を通して早期から高い進路意識を育成する。	A	A	・進路学習室の積極的な活用について、手立てを講じる。 ・模擬試験結果の分析、共有、活用に努める。
		2学年:進路別見学会、インターンシップ、進学相談会参加等を通して個々に合った進路意識を明確化する。	A		
		3学年:1・2学年で獲得した進路に対する知識・経験を基に、個々の進路を実現させる。	A		
	より高い学力を養成し、大学・専門学校への進学率を高める。	土曜課外、平常課外授業等へ積極的に参加させるほか、進路学習室の積極的な活用を促し、より高度な学力・応用力の向上を図る。	B		
		大学・専門学校のオープンキャンパスへの積極的な参加を促すとともに、大学への進学・入試に対して早期の意識づけをする。 校外模試を積極的に活用し、生徒一人一人の学力をきちんと共有・分析し、高い志を持って進路選択ができるよう指導する。	B		
生徒指導	心の教育を充実させ、規範意識とモラルの向上を図る。	規律委員を中心にあいさつ運動を率先して行い、礼儀や言葉遣いなどマナーを身に付けさせる。	A	A	・規律委員、生徒会役員の積極的な活動 ・学校全体で生徒の自立的規範意識の向上を図る ・社会人としてふさわしい態度の育成の具体的な手立てを講じる
		自己を大切にし、他人を尊重する心を養う。	A		
	問題行動の未然防止に努める。	校内・校外の巡回指導を継続的に行う。	A		
		生徒の小さな変化を見逃さない。	A		
	交通安全教育を推進する。	関係諸機関との連携を図り、交通講話などを実施して事故防止に努める。校外巡視指導や保護者との連携により事故及び防犯に関して確認事項の徹底を図る。	B		
	社会人としての自覚につなげる啓発活動を行なう。	18歳成人に伴う啓発活動を行い、社会人としてふさわしい態度の育成をはかる。	B		
地域社会からのさらなる信頼を得る	学校外での節度ある行動に繋げるための望ましい習慣を身に付けさせる。	B			
生徒指導 いじめ防止	未然防止に努める。	いじめ未然防止のため、生徒の規範意識を高める。	B	A	・学年のみならず学校全体でいじめ対応に努める ・いつでも誰にでも相談できる環境作り ・情報モラルの向上をさらに進める ・引き続き関係機関との連携を深める ・SC等の研修
		生徒が教職員に相談しやすい関係を構築する。また、スクールカウンセラーの一層の活用を図る。	B		
		インターネットやSNSを通じて行われるいじめ防止に努めるとともに、情報モラル教育を推進する。	B		
	早期発見に努める。	相談窓口を複数周知し、相談しやすい関係を構築する。	B		
		いじめに関するアンケートを定期的に行うほか、生徒の発する小さなサインを見落とさず、いじめの早期発見に努める。	A		
		適切にいじめの事実を確認し、被害者の心のケアをする。	A		
	早期解消に努める。	加害者に対して、いじめを許さない指導を徹底しつつ、心のケアをする。	A		
		重大事件があった場合、速やかに調査結果を県教育委員会を通じて知事に報告する。	A		
		関係機関との連絡体制の強化に努める。	保護者と密接に連絡を取り合い、事実の掌握と早期発見・早期解決に努める。		
			警察、児童相談所、法務局等の関係機関と連絡体制を構築し、相談することで早期解消を図る。		
教職員の研修を深める。	専門家によるいじめ防止対策等や実践的な研修を行い、全職員の共通理解のもと、いじめ問題の解決に向けた体制を構築する。	A			

別紙様式 2 (高)

特別活動	生徒主体の自発的な生徒会活動を展開する。	生徒会役員を中心に、生徒の自主性を尊重し、行事の企画・準備・運営に取り組む。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・複数回実施するボランティア活動や、長時間にわたるボランティア活動への参加促進 ・キャリア・パスポート運用における、各学年・他分掌との連携
	体験活動に積極的に取り組ませる。	校則等を考え、議論する活動を継続し、学校生活や生徒会活動への主体的な参加を目指す。	B		
	教育活動としての部活動の活性化を図る。	豊かな人間性を育むことを目指し、ボランティア活動等の体験的な活動に生徒が積極的に参加できるよう支援する。	B		
	キャリア・パスポートの活用を促進する。	活動の成果の掲示場所や発表の機会を増やし、生徒の部活動に対する関心やモチベーションの向上を図り、達成感や自己有用感を高める。	A		
企画開発・ICT教育推進	石岡二高としての「総合的な探究の時間」の基本的枠組みを確立し、探究を軸とした学びのスタイル改革を推進する。	「総合的な探究の時間」ロードマップをもとに、体系的な指導を行う。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」は、過去の実績を引き継ぎつつ、新たな展開を生むことができた。 ・教科横断的な授業をする機会が1回しかなかったので改善を要する。 ・新たにInstagramアカウントを開設し、情報発信を始めた。 ・外部機関との緊密な連携のもと、チャレンジ・プロジェクト関係の行事を実行することができた。今年度は予算執行率100%を達成した。
		企画開発・ICT教育推進部と学年が連携し、協働して「総合的な探究の時間」の企画運営を行う。	A		
		教務部や各教科と連携し、教科等横断的な授業を実践する。	B		
	ICTを活用した教育活動の一層の充実を図る。	ICT活用研修を積極的に実施し、教員のICTスキルの伸長を目指す。	B		
		学習支援アプリの活用方法について、学年に対するフォローやマネジメントを行う。	B		
		1人1台端末を前提とした授業実施を職員全体に呼びかけ、授業での活用を増やす。	B		
	チャレンジ・プロジェクトに関係する行事の円滑な企画運営を行う。	SNSを利用して生徒の活動や学校の情報を発信することで、石岡二高の魅力を外部に伝えると共に、開かれた学校づくりに寄与する。	A		
		部会を定期的に開くことで学年・分掌との情報交換を密に行い、進行状況を学校全体で共有しながらプロジェクトを実施する。	A		
		外部機関との連携協力において、担当分掌としてのイニシアティブを発揮し、学年・分掌のフォローやマネジメントに努める。	A		
	保健厚生	生徒が学習するために適切な環境を整備するとともに、適正な職場環境の整備に貢献する。	安全点検、環境衛生検査を実施する。		
清掃監督の職員や整備委員と連携し、普段の清掃活動に加え、ワックス塗布や大掃除等を行い、校内美化に努める。			A		
衛生委員会と連携して、職員への健康に関する研修を推進する。			A		
心身の健康の維持・増進に努め、生徒の心の居場所を提供し安らげる環境を整備する。		保健委員、福祉委員と連携し、健康診断と外部講師による性教育講話を実施する。	A		
		生活習慣を見直し、健康的な生活の維持に努める。	B		
担任・保護者・SCと連携して生徒をチーム支援していくとともに、カウンセリングの環境を整える。	B				
特別支援を必要とする生徒を個別に支援する体制を整える。	A				

別紙様式2 (高)

図書	生徒の自発的、主体的な学習活動を支援し、教育活動のさらなる発展に寄与する。	「学習・情報センター」として、学校図書館を活用した学習活動や読書活動を日々の各教科等の指導に取り入れ、生徒の思考力、判断力、表現力等を効果的に身に付けさせる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館のさらなる環境整備に努め、全ての生徒にとって、居心地の良い空間となることを目指す ・カウンター当番や「図書館だより」作りにとどまらず、図書委員がさらに活躍できる場を提供する。 ・石岡市立中央図書館など、外部の施設との連携をはかる。
		生徒の自学自習の場として利用の促進を図るため、環境整備に努める。	A		
		SDGsやLGBTQ、民族共存など現代の諸問題に関する書籍を増やし、生徒の利用する意欲を高める。	B		
	生徒の想像力を培い、それぞれの興味・関心や豊かな心をはぐくむ、自由な読書活動や読書指導に取り組む。	オリエンテーションや読書、マナーに関する啓発活動を行い、図書館利用を促す。「本屋大賞」ノミネート作品など優れた作家・作品を積極的に取り上げ、紹介していく。	A		
		学年、教科の推薦図書や生徒の希望図書を把握し、適切で有用な選書を行う。	A		
		ビブリオバトルや読書感想文コンクール等を通して、読書活動を活性化し、豊かな感性を育む。	B		
渉外	生徒の健全な発達を支える環境整備を目的として、保護者・地域との相互理解・連携強化を図る。	保護者が主体的に参加できるPTA新組織により、役員と連携を密にして運営する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA役員・各種委員との連携を継続し、保護者が参加しやすい組織に向けて運営方法の改善を重ねる。 ・同窓会と共に、学校の活性化に向けた予算の運用方法を協議する。
		地域の巡回指導を実施し、生徒の登下校の実態把握及び改善を図るとともに、登下校ルートでの環境整備を行う。	A		
		高P連の行事に積極的に参加して先進事例を学び、本校の活動に活かす。	A		
		学校の活性化のために、同窓会との協力体制を強化する。	A		
家政	学科のねらいを明確にして取り組む。	2つのコース制(フードデザインコース・ヒューマンサービスコース)を取り入れることで、特色ある授業を展開する。また、積極的に外部の専門家を招聘し、より専門性の高い授業を行うことで、職業人としての資質・能力を育成する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・個別最適化な学びの実現とICTのより積極的な活用を見いだす。
		課題研究(3学年・4講座)では専門家や地域資源を活用し、生活産業に関する課題を発見し、研究の成果を発表する場を設け、専門性と自己有用感を深める。また、保護者や地域住民及び近隣中学校に向けて、生活デザイン科の特色について広く発信していく。	A		
	教科と家庭クラブ活動の連携を図り、生徒主体の活発な活動を促す。	家庭クラブ活動を通して、講習会やボランティア活動、校内外の奉仕活動などへの積極的な参加を促し、社会参画や勤労への意欲を高めさせるようにする。	B		
		家庭や地域との連携を図りながら、ホームプロジェクトを実施し、発表活動を取り入れることで、探究学習の充実を図りながら研究活動を継続していく。	A		
	職業人として必要な豊かな人間性を育む。	様々な体験学習や多様な教材を活用して地域に望まれる豊かな人間育成を目指す。また、個別最適化な学びをとおして、基礎基本の技術を修練し、家庭科技術検定の上級合格を目指せる生徒を育成する。	B		

別紙様式 2 (高)

第1学年	基本的な生活習慣を身に付け、自己管理能力の伸長を目指す。	怠惰な欠席・遅刻・早退を見逃さずに指導し、授業開始には準備を完了して待つなどの行動を徹底させ、時間を守る習慣を身に付けさせる。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 自己管理能力の伸長についての課題は、出来ていない生徒への指導に時間が多くかかってしまい、出来ている生徒へさらなる成長を促すことができなかったことである。『目標達成のための計画づくり、実行、振り返り』という流れ、週間スケジュールの活用方法を示していきたい。 あらゆる生徒指導の場面で自己決定権を尊重し、本人の思いと高校生としての振る舞い・社会人としてのマナーやモラルについて考えさせ、探究させた。
		学習課題の提出を促し、未提出の生徒への指導を徹底することで学習習慣の確立を図る。	B		
		今未来手帳を活用してスケジュール管理や学習状況確認を行い、自己管理能力の伸長を図る。	B		
	基礎学力の向上とキャリアデザインの形成を図る。	探究を軸とした学びのスタイル改革とICT教育を推進し、魅力のある授業づくりに励むことで、生徒一人一人が積極的、主体的に学習する姿勢を育成し、基礎学力の向上を図る。	A		
		スタディサプリ等の学習コンテンツを利用して家庭学習や課外学習を推進し、キャリア・パスポートを活用し、キャリア学習の見える化によって、上級学校への進学を希望する生徒の意欲と学力の向上を図る。	B		
		総合的な探究の時間や各種講演会などの行事において探究活動を推進し、自らの進路や生き方を主体的に構想・設定する姿勢を育成する。	A		
	豊かな心を持った人間性のある生徒を育成し、思慮分別がある成人となるべき準備をする。	他者の言葉に耳を傾け、素直に話を聞く態度を育成し、他者への配慮や共感する力を養う。	A		
		挨拶を励行し、正しい言葉遣いができるように指導することで、高校生としてふさわしい振る舞いや、分別がある行動ができるようにする。	A		
		自己決定権を尊重し、校内外の活動に積極的に参加を促すことで、主体的・協働的に活動する姿勢や社会に参加する姿勢を育成するとともに、集団への帰属意識や規範意識の確立を目指す。	A		
第2学年	安定した生活習慣を身に付け、自己管理能力の伸長を目指す。	欠席・遅刻・早退の原因を明確にし、改善を図っていくことによって、安定した学校生活を送れるようにする。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題に取り組む意欲が低い生徒がいるので、提出する意義や期限を守ることの大切さを理解させる。 生徒自らスケジュール管理し、計画的に学習に取り組めるよう支援していく。 国公立大学への進学希望者に対するサポート体制の構築を目指す。 社会人としての自覚と教養の向上に努める。
		学習課題に対して自ら責任を持って計画的に取り組む態度を育成する。	B		
	基礎学力の向上とキャリアデザインの形成を図る。	協働的・探求的な学びとICTの活用を推進し、魅力のある授業づくりに励むことで、生徒一人一人が積極的、主体的に学習する姿勢を育成し、基礎学力の向上を図る。	A		
		スタディサプリの学習コンテンツを利用して家庭学習や課外学習を推進し、上級学校への進学を希望している生徒の学力向上を図る。	A		
		生活デザイン科、普通科の特色を生かし、進路行事・就業体験活動や探究活動を通して、自らの進路や生き方を主体的に構想・設定する姿勢を育成する。	A		
	豊かな心を持った人間性のある生徒を育成し、思慮分別がある成人となるべき準備をする。	他者の言葉に耳を傾け、素直に話を聞く態度を育成し、他者への配慮や共感する力を養う。	A		
		挨拶を励行し、正しい言葉遣いができるように指導することで、高校生としてふさわしい振る舞いや、分別がある行動ができるようにする。	A		
		各学校行事への積極的な参加を促すことで、主体的・協働的に活動する姿勢を育成するとともに、集団への帰属意識や規範意識の確立を目指す。	A		
		自己決定権を尊重し、校内外の活動に積極的に参加することを促すことで、責任感と社会に参加する姿勢を育成する。	B		

別紙様式 2 (高)

第3学年	基本的な生活習慣を身に付け、自己指導力の伸長を目指す。	欠席・遅刻を繰り返す生徒に対して、保護者との連絡を密にしなが、基本的な生活習慣の改善を図る。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻欠席は3年生になってだいぶ改善されたが、最終的に改善されない生徒も少なからずいた。 総探の内容が就職・進学ともに大きな影響を及ぼした。調査書記載面はもちろん、進学の面接試験で大学側もかなりその内容を気にしているようであったため、やってきたことが役に立った。 生徒の進路希望に応じた対策を全教員の協力の下、実施できたことにより、進路実績が向上した。 就職対応を早めに実施したことにより、進路の意識を高め、授業に対する意識向上にもよい影響を及ぼした。
		学習課題の提出を促し、未提出の生徒への指導を徹底することで、学習習慣の確立を図る。	B		
		自分自身を律し、約束を守る、他人に迷惑をかけないなど、自己規律力の育成を図る。	A		
	基礎学力の向上とキャリアデザインの形成、進路実現を図る。	ICTの活用やアクティブラーニングを推進し、魅力のある授業づくりに励むことで、生徒一人一人が積極的、主体的に学習する姿勢を育成し、基礎学力の向上を図る。	B		
		個に応じた指導を徹底し、国公立大学の複数名合格をはじめとした、個々の希望する進路実現を学年・教科の教員チーム一丸となって図る。	A		
		生活デザイン科、普通科の特色を生かし、進路行事や課題研究、探究活動を通して、自らの進路や生き方を主体的に構想・設定する姿勢を育成する。	A		
		学年と進路指導部の連携を強化し、生徒の進路実現に向けて有効な指導を行う。	A		
	豊かな心を持った人間性のある生徒を育成し、思慮分別がある社会人となるべき準備をする。	他者の言葉に耳を傾け、素直に話を聞く態度を育成し、他者への配慮や共感する力を養う。	A		
		挨拶を励行し、正しい言葉遣いができるように指導することで、社会人としてふさわしい振る舞いや、分別がある行動ができるようにする。	B		
		各学校行事への積極的な参加を促すことで、主体的・協働的に活動する姿勢を育成するとともに、集団への帰属意識や規範意識の確立を目指す。	A		
		自己決定権を尊重し、校内外の活動に積極的に参加することを促すことで、責任感と社会に参加する姿勢を育成する。	A		
		自らの意思を明確に表明し、進路等に関わる事項等の報告・連絡・相談・確認を自律的に実施することを通して、社会人としての自覚や教養を育む。	B		
国語	基礎学力定着の徹底を図る。	漢字・語句の基礎的な力を培い、国語力の向上を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 漢字検定の課外の実施により、例年よりも合格者が増えたことがよかった。 他教科と協力した授業を行ったり、国語科の費用で百人一首を購入して授業で用いたりするなど、生徒にとっていい学びができるような実践をしていた。
		ICT機器の利用や、言語活動を通して、伝え合う力や思考力、想像力を伸ばす。	A		
		学校図書館と提携し、生徒の読書に対する意欲を喚起する。	B		
		古典の世界に親しませるため、画像や音声等を含む教材を利用し、多くの文章に触れさせる。	A		
	進路を意識して、必要な教材を授業に組み入れる。	問題集等を活用して国語に関する知識を増やし、適切に使うことができるようにする。	B		
		課外授業や個別指導、学習アプリを活用し、上級学校へ進学を希望する生徒に応じた指導を行う。	A		
	生徒の実態に応じた授業改善を行う。	生徒の自己評価や授業アンケートを活用して生徒の取り組み状況や理解度を測り、授業の改善を図る。	A		

別紙様式 2 (高)

地歴・公民	基礎学力の定着を図るとともに、生徒の学習意欲を高め、主体的な学習活動を促進する。	ICTを積極的に活用し、生徒の実態に応じたわかりやすい授業を展開する。小テストを実施したり、ノートを定期的に提出させたりしながら理解度を確認し、基礎的な内容の確実な定着を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ICT のさらなる活用、対話を重視した授業改善に努めることにより、自ら問を發し、考察し、探究できる人材を育む。
		成人年齢の 18 歳への引き下げに対処すべく、シティズンシップ教育や課題探究型の活動を充実させ、地球規模で考え、地域社会に貢献する人材を育成する。	B		
		地域の歴史と日本史・世界史を結びつけた授業を行い、地域の歴史を多面的に理解した人材を育成する。	A		
	授業改善	ペアワークやグループワークを積極的に取り入れ、対話をもとに学習事項の定着を図る。また、ICTを活用し、史資料を視覚的に分かりやすく提示し、史資料をもとに考察し、まとめ、表現する授業を展開し、思考力、表現力を高める。	A		
数学	生徒の学習意欲を喚起し、個に応じた最適な指導をする。	重要な公式を確実に身に付け適用できるようにすることで、数学の有用性を認識させて学習意欲の喚起を促し、具体的な目標を定めて学習する姿勢を身に付けさせる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 課外授業を習熟度別実施し、個別最適な指導を実現できた。 スタサブを教科として活用しきれなかったが、教科書のデジタルコンテンツを活用することができた。 単元テストは、章または節ごと実施できた。授業時間内に行うため、教科書の内容にかかる時間が減ってしまうことが課題である。
		課外授業や個別指導、学習コンテンツ等を通して、上級学校へ進学を希望する生徒や数学を苦手と感じている生徒に応じた、個別最適な指導を行う。	A		
	基礎学力の定着を図る。	第1学年普通科では、学習習熟度に応じて2クラスを3分割にし、理解度の段階に応じた授業を展開する。	A		
		スタディサプリやデジタルコンテンツを積極的に活用して、授業内容の理解を深める。さらに課題配信を行い、家庭学習を促進し、基礎学力を高める。	B		
	授業改善	問題を解決するための資質・能力を育成する。習熟度別授業を活かし、集団に適した授業を行い基礎・基本の定着と応用力の向上を図る。また、単元テストを利用して論理的表現力の向上を図る。	A		
情報	知識・技能及び情報の分析・評価・判断力を育成する。	情報機器を操作する時間を定期的に設け、情報社会の変化に対応できる能力を高める。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報や著作権の理解が浅く、情報モラルを守れない生徒が見られた。 学習内容について授業にとどまらず、日常生活でも実践できるレベルにまで習熟度を高める必要がある。 Web を使った学習まで至らず、個別最適化ができなかった。今後は ICT のみならず Web 教材を使用し、生徒自ら進捗を確認できるようにしていく。
		アプリケーションソフトを積極的に活用し、情報を効果的に処理できる能力を身に付けさせる。	A		
	情報モラルに配慮する態度を身に付ける。	個人情報や著作権についての学習を通して、情報の扱い方を学ばせる。	B		
		ICTに関わる学習を通して、情報社会において守るべき情報モラルについて考えさせる。	B		
	授業改善	WeB上での学習を推進し、個別最適学習の実現を図る。ICT を活用しながら自ら学習を調整し、課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現など、主体的に学習を進める授業を展開する。	B		

別紙様式 2 (高)

理科	基礎学力の定着を図る。	小テスト等の機会を増やし、スモールステップを意識した指導を行う。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットや電子黒板の有効活用により、グループ活動や発表の機会をより充実させ、思考力や表現力を育成する。 ・観察・実験をできるだけ取り入れ、探究的な学びをより多く設定する。 ・学習アプリを積極的に活用し、多様な学力層に対応した授業実践を行う。
		学びあい活動等のグループワークやプレゼンテーション等の活動を通して、自らの考えを自らの言葉で表現できる力を養う。	A		
		電子黒板やタブレット端末等のICT機材を活用し、双方向型の授業を行うほか、課題配信等も行うことで個別最適な学びを促進する。	A		
	観察・実験を通して、理科的な探究活動を行う。	観察・実験を通して理科の面白さを体験させ、興味・関心が湧くように指導する。	A		
		観察・実験の結果の分析、解釈、考察など、理科的に探究する過程を通して、思考力・判断力・表現力を育てる。	B		
		実験器具の使い方や実験後の片付け等の指導を通して、実験操作の意味や流れについて自ら考え、主体的に行動する態度を育てる。	B		
	理科的現象への興味と関心を高める。	自然科学としての理科を認識させ、歴史的意義や現代における役割及び環境問題などへ思考が及ぶように指導する。現代社会を生きる上で必要な学問であることを理解させる。	A		
授業改善	自ら思考し、問題を解決するための資質・能力を育成する。そのために、何事にも問いを立て、情報を収集し、対話によって論理的・批判的思考力と表現力を高める授業を実践する。	B			
保健体育	授業に臨むための基本的学習習慣の定着を図る。	着替え、用具等の準備を含め、迅速に行動し、時間を厳守するように指導する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア活動やグループ活動を充実させ、思考力や表現力、コミュニケーション能力を育成する。 ・スキルテストの内容や評価基準の見直しを行う。
		授業を通し礼儀やルールを守る態度の向上を図る(指定された服装、開始・終了の挨拶、言葉遣い等)。	A		
	十分な運動量を確保する。	生徒が十分な運動量を確保できる授業を展開する。	A		
	卒業後も主体的にスポーツや健康課題に取り組める能力の育成を図る。	主体的に活動し相互に教え合うことを通して、考える力や表現力、コミュニケーション能力の育成を図る。	B		
		ICTを活用して、スポーツや健康課題に対して主体的に取り組む態度を養う。	B		
授業改善	教材や実践事例の共有、相互の授業観察を通して、教科指導力の向上を図る。	A			
英語	基礎学力の向上を図ると共に、授業を通して発信力を養う。	単語の小テストやパフォーマンステストを定期的実施し、効果的に評価していく。また、ワークブックやワークシートを定期的提出させ、学習内容の理解度を確認する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・英検対策の強化。個別指導が中心となるため、担当教員を割り振り、生徒への手厚いサポートを行う。 ・英語科教員自身の英語力向上。クラスルーム・イングリッシュの使用率向上を目指す。 ・ICT・スタサブ ENGLISH の効果的な活用。引き続き有効な活用を検討し、実施する。
		第1学年は習熟度に応じて1クラスを2分割し、少人数によるきめ細かな指導を行う。	A		
		学習内容の定着のため、放課後の補習授業や課外授業を実施する。	A		
		クラスルーム・イングリッシュや音声教材をできるだけ多く使い、リスニング力の向上を目指す。	B		
	英検取得を促す。	生徒たちに検定に関しての情報を定期的に周知させ、積極的に検定を受けるように促す。また、英検対策課外を行い、過去問題やスタディサプリ ENGLISH を活用して、検定試験の対策を行う。	B		
	授業改善	主体的、積極的に学ぶ姿勢を育成する。ペアワークやグループワーク等の活動において、学び合いの中で学習の定着を図る。教材の共有や、ICT・スタディサプリ ENGLISH 等の活用を通して、指導力の向上を図る。	B		

別紙様式 2 (高)

家庭	基礎的・基本的な知識を理解させ、技術の習得を図る。	TTや分割履修などを活用し、生徒の実態にあった指導の充実を図る。	A	A	次年度は教科横断的授業を充実させたい。
		個に応じた知識・技術の基礎基本の定着を図るため、丁寧な個別指導を積極的に導入する。	A		
	生徒の興味関心を考慮した授業の工夫をする。	実践的・体験的な学習や教科横断的な学習を実施する。変化に即応できる生活者としての知恵を身に付け活用できるように指導を工夫する。	B		
		地域との連携や外部の専門家による指導、コンクールへのチャレンジなどを通して、生徒の意欲・関心が高まるように指導を工夫する。	A		
	授業改善	ICT 等を活用し、自己評価と他者評価を行ないながら、主体的に学ぶ態度を育む指導の充実を図る。	B		
芸術(音楽)	音楽を愛する心情を育て、様々な表現方法を身に付ける。	多様な音楽活動を通して、生涯にわたって積極的に音楽活動に親しむ態度を育てる。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ICT 環境を活用した協働学習の在り方の模索 多様な音楽文化の理解につながる鑑賞題材の検討
		歌唱・器楽の活動において、グループでの活動などを通し、音楽を作り上げる喜びを味わう。	B		
	多様な音楽文化への理解を深め、音楽に対する感性を磨く	様々な分野の音楽を主体的に鑑賞し、感じたことを言語で表現し共有する。	B		
		日本の伝統的な音楽の演奏や鑑賞を通して、日本の伝統文化を尊重する態度を養う。	A		
	授業改善	ICT 機器を活用し、生徒が自分の取り組みを振り返りながら学習に取り組めるようにする。	A		
芸術(美術)	美術を愛好する心情を育て、創造的な表現と鑑賞の基礎的な能力を身につける。	生徒が自分に引きつけて考えを深められるような課題設定に努める。また、生徒一人一人が主題(問い)を生み出し、制作を通して個性を発揮できるよう、段階的な指導を行う。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が授業目標と達成度を意識しながら制作活動に取り組める仕組みづくりの検討を進める。 ICT の活用により、個別対応の工夫を探る。
		画材の基本的な使い方を習得させる。	A		
		原始時代から現代までの絵画・彫刻・デザイン・映像・漫画などを鑑賞し、美術文化の歴史や価値について理解を深める。ICT 機器を活用して、芸術作品の見せ方や意見交換の方法を工夫し、効果的な鑑賞につなげる。	B		
	授業改善	授業の目標を明確に示し、生徒が自分の達成度を確認しながら学習に取り組めるようにする。	B		
	事務部	予算管理の適正化を図る。	各校務分掌とのヒアリングを実施し、不要予算の削減と必要予算の配分を行い、効果的な予算執行に則した配分を図る。		
水道料金については、毎日メーターを計測し、漏水の早期発見に努める。			A		
電気料金については、デマンド監視装置及び教室の空調機器の集中制御機能の活用により、節電を行う。また、教室等の LED 化に向けて具体的な整備計画を作成し予算化する。			B		
施設の安全と環境美化に取り組む。		日常的な点検を実施し、危険箇所の発見及び簡易な修理・修繕が可能な場合は即時に施工することにより危険箇所の削減を図り、生徒・職員の安全な環境を保持する。	A		
		植栽等の管理計画を立て、適切な時期に処置を行うことで景観の美化を維持する。	B		
施設設備の長期的な整備計画を進める。		長期的計画のもと、空調設備更新や ICT 教育関連設備(アクセスポイント)等の整備を進める。	B		

※ 評価規準：評価段階 A：十分できた B：概ねできた C：やや不十分 D：不十分